

地震調査研究推進本部政策委員会 第72回調査観測計画部会議事要旨 (案)

1. 日時 平成26年7月25日 (金) 13時00分～14時00分
2. 場所 文部科学省 15F特別会議室 (東京都千代田区霞が関3-2-2)
3. 議題
 - (1) 調査観測計画の見直しについて
 - (2) その他
4. 配付資料
 - 資料 計72-(1) 調査観測計画部会構成員
 - 資料 計72-(2) 第71回調査観測計画部会議事要旨 (案)
 - 資料 計72-(3) 地震に関する総合的な調査観測計画 (案)
 - 資料 計72-(4) 意見募集の結果について
 - 資料 計72-(5) 気象庁における南海トラフ巨大地震対策について
【気象庁説明資料】

参考 計72-(1) 今後のスケジュール予定
5. 出席者

部会長	平原 和朗	国立大学法人京都大学大学院理学研究科教授
委員	青井 真	独立行政法人防災科学技術研究所観測・予測研究領域地震・火山 防災研究ユニット地震・火山観測データセンター長
	今泉 俊文	国立大学法人東北大学大学院理学研究科教授
	小白井亮一	国土地理院測地観測センター長
	小平 秀一	独立行政法人海洋研究開発機構 地震津波海域観測研究開発センター研究開発センター長
	佐竹 健治	国立大学法人東京大学地震研究所教授
	篠原 雅尚	国立大学法人東京大学地震研究所教授
	桑原 保人	独立行政法人産業技術総合研究所活断層・火山研究部門長 (佃 栄吉 独立行政法人産業技術総合研究所理事 代理)
	土井 恵治	気象庁地震火山部管理課長
	石川 直史	海上保安庁海洋情報部技術・国際課地震調査官 (長屋 好治 海上保安庁海洋情報部技術・国際課長 代理)
	久田 嘉章	工学院大学建築学部教授
	平田 直	国立大学法人東京大学地震研究所教授
事務局	磯谷 桂介	大臣官房審議官 (研究開発局担当)
	森澤 敏哉	研究開発局地震・防災研究課課長
	丸山 秀明	研究開発局地震・防災研究課防災科学技術推進室長
	加藤 孝志	研究開発局地震・防災研究課地震調査管理官
	山際 敦史	研究開発局地震・防災研究課地震調査研究企画官
	澄川 雄	研究開発局地震・防災研究課課長補佐
	森田 裕一	文部科学省科学官
	加藤愛太郎	文部科学省学術調査官
6. 議事概要
 - (1) 調査観測計画の見直しについて

資料 計72-(3)、計72-(4)、に基づき、意見募集 (パブリックコメント) で得られた意見と、地震調査研究推進本部の考え方 (案) について事務局より説明。

佐竹委員：意見番号 37、38 についてだが、なお書きに具体的なことを入れたということだが、計画案の 21 ページには入っていない。

澄川補佐：申し訳ない。37、38 の修正について、お配りした資料 計 37-(3) への反映が漏れていることに先ほど気付いた。事務的な反映漏れだ。なお書きに書いてあるものを、そのままそっくり入れる。

澄川補佐：意見番号 50 については、青井委員に御相談をしていろいろ回答を書いているが、御指摘の文章が短いので、どういう御指摘なのかという話をした。もしよろしければ、青井委員から補足いただきたい。

青井委員：意見番号 50 についてだが、平野部で長周期地震動を観測するに当たって、長周期まで測れる機器として、計画案の 36 ページに括弧して「例えば、速度型強震計等」と書いてあるが、速度型強震計を使うのも一つの方法であり、長周期まで割と精度よく測れる加速度計を使うのも一つの方法なので、そこについては例示に過ぎないとしてお答えするのが良いかと思う。また、速度型強震計を使うのは無駄なのかということについては、例えば F-net や Hi-net の地中の速度計については、強震計ではないですが、岩盤という非常にノイズレベルの低いところでは能力を発揮するのでという意味で、なお書きを書いているということだ。

佃委員代理（桑原）：意見番号 51 番で、最初の段落の最後の文章で、「いまだ研究事例がありません」とある。この文章は公表されるのか。

澄川補佐：そうだ。回答という形になる。

佃委員代理（桑原）：「事例がありません」と言うと、「そうではない」と言う人が多分いると思うので、「研究事例の蓄積段階です」などの表現の方が良いと思う。

澄川補佐：分かった。

平田委員：13 ページの意見番号 39 番について、発電所の地震計は 140 秒以降欠落するという話だが、その答えとして、長期安定的に行うという返事をしているが、例えば Hi-net は連続観測であり、KiK-net、K-NET は何秒取っているのか、要するに 140 秒ではなく波形全部取っているということをもし言えるのであれば、言わないか。

青井委員：これについては、140 秒以後が何で欠落したのか、今の段階で追わなかったのと言及しなかったが、場合によっては 140 秒しか取らないという設定になっており、老朽化といった問題ではない可能性もあるとは思った。平田委員がおっしゃった K-NET と KiK-net については、イベントトリガー式なので連続ではないが、イベントのトリガーの条件が満たされていれば、最長 300 秒までは取るようになっている。さらに、それが終わったときにまだイベントトリガーの状況を満たしていれば、更に次の 300 秒が、すき間なくずっと続いていくので、実質的には欠落がないような設定になっている。

平田委員：そうであれば、国の観測では十分な長さで記録できるということ、少し入れた方が良いのではないか。

澄川補佐：分かった。青井委員と少し御相談させていただいて、この点を修正させていただきたい。

平原部会長：十分データが取れるという話を付け加えて書くと。後で気が付いたときは、いつまでに事務局に伝えれば良いか。どんどん延ばすわけにはいかないだろうが。

澄川補佐：もしよろしければ、この部会としては本日取りまとめという形にさせていただければと思う。これは本文というより回答の話だが、本文は、先ほど佐竹先生に頂いた反映が漏れていたところなど、最終的なチェックと併せて最終版を改めて確定しようと思う。もし追加の御意見があればということで、1週間後の8月1日までとさせていただければと思う。その上で、よろしければ、本日、主査の預かりという形もさせていただければと考えている。

平原部会長：部会としてはこれで決定としたいが、8月1日まで修正可能ということなので、大きく変えるのはなかなか難しいと思うが、文言の問題など御相談いただいて変えることは可能だと思うので、御意見を寄せてほしい。
先ほど言ったように、これで部会決定とさせていただく。よろしいか。特に御意見がなければ、これで部会決定とする。
では、今後は、8月下旬に予定されている政策委員会にて報告して、審議され、更に本部会議にかけられるということだ。8月1日まで修正可能ということなので、またお気付きの点があれば、御意見を願います。

(2) その他

資料 計 72- (5) に基づき、気象庁における南海トラフ巨大地震対策について土井委員より説明。

平原部会長：小平委員から特に何かコメントはあるか。

小平委員：特にコメントはない。私たちも直前に情報を頂いたが、状況は理解している。
今後、緊急地震速報に DONET のデータを使っていただくという方向で、JAMSTEC の法人としての性格、果たすべきミッションもあるので、どう内部で緊急時に対応していくか、ただいま検討を進めている。